

自然環境の変化と野生鳥獣の実態
(世界及び日本における現状と課題)

世界の環境問題及び自然環境に関わる野生鳥獣の実状について狩猟経験を通して感じたことを率直にお話しします。

◆(講話内容)

- ・ 世界及び日本における自然環境及び生物環境
- ・ 野生鳥獣の生息状況
- ・ 野生鳥獣による農林漁業への被害の実態
- ・ 鳥獣被害に対する原因・対策の現状
- ・ 狩猟の世界

◆世界が抱える重点環境問題 25

地球温暖化	気候変動	オゾン層の破壊	酸性雨	塩害
森林破壊	海洋汚染	海洋ゴミ問題	水質汚染	農業汚染
人口爆発	大気汚染	騒音問題	自然災害	砂漠化
水資源の危機	食糧問題	生態系への影響	外来種の侵入	
ゴミの埋め立て問題	放射性物質の廃棄問題	土壌汚染		
エネルギー問題	採掘による有害物質	二酸化炭素の排出問題		

◆環境問題の要因

ほとんどが利便性を追求した人間活動による都市化(文明化)と人口増加

☆森林の伐採-----1,300 万 ha/年、1990 年以降熱帯林の消滅(1 億 ha)

☆外来種の異常発生(生態系、農林水産業への被害))

☆サンゴ礁の減少 -----20%消失、20%劣化(1990 年以降)

☆乱獲による魚種の枯渇---海洋魚種の 25%

☆生態系生物環境への影響

*コンクリートで固めた都市化、河川

*田畑やゴルフ場で使用される肥料・農薬

*川への合成洗剤

バクテリア本来の働きが家畜のし尿、農薬や化学肥料によって損なわれ、自然界の微妙な調和が保てず、自然本来の生産力が失われる。

◆日本の自然環境は良好

地史的要因(3,000kmの国土、四季、標高差、数千の島、火山、台風)による国土攪拌により多様な生物環境が作り出されている。また、海洋においても3つの海流や35,000kmにわたる複雑な海岸線も良い環境を生み出している。国土の約70%が森林であり、固有種比率も高く、海棲哺乳類や海水魚においても生息環境が良く日本近海には多く生息している。

◆日本の野生鳥獣の状況

*鳥類:環境の変化により渡り鳥は1990年以降減少

- ・温暖化によりシベリアやアムール川が全面凍結せず、餌場の確保が可能
- ・フィリピン等熱帯林での森林伐採により鳥類の生息環境が激減

*野生獣類は増加

- ・戦後の広葉樹林の伐採により、野生動物は山麓や人里へ下り、そこには東京都の2倍の耕作放棄地と未収穫の野菜や果樹があり生息環境が良くなる
- ・行政の鳥獣保護への力点が強く、鳥獣被害や適正に対しては無関心

<日本の主な野生動物>

- ・ヒグマ 16,000頭(1990年の約1.5倍)
- ・ツキノワグマ 15,000頭(1990年の1.2倍)
- ・ニホンシカ 3,600,000頭(2015年の1.2倍)

<世界の主な野生動物>

- ・ライオン 30,000頭(1950年の1/10)
- ・ゾウ 500,000頭(30年前は100万頭、100年前は1,000万頭)

◆日本における野生鳥獣による被害実態

<農作物>

*シカ・イノシシ・サルによる被害は全体の70%以上

<林業>

*森林の植生被害⇒森林の消失⇒土壌の流出

シカや野ネズミによる被害は全体の90%以上

1年に0.1%の森林が消失

<漁業その他>

*海生鳥獣による養殖魚や漁網への被害

*外来種による感染症や生活環境への問題

＜野生鳥獣による被害額＞		実際は 4~6 倍		(単位:百万円)	
獣類	金額	獣類	金額	鳥類	金額
ニホンシカ	8,500	カモシカ	360	カラス	2,300
イノシシ	6,300	アライグマ	300	スズメ	500
サル	2,000	ネズミ	280	ヒヨドリ	640
クマ	370	ハクビシン	340	カワウ	10,000

＜シカ増加要因＞

- ・ 天敵がない(野犬、オオカミ)---100 年前に絶滅策
- ・ 温暖化による越冬(積雪、牧草地)---越冬率 70%→90%
- ・ 餌の減少(広葉樹<針葉樹)---山麓へ下り、耕作放棄地で生息
- ・ 出産年齢の低下(2歳から可能)---積雪減及び栄養上昇
- ・ 狩猟者の減少---50 年前の 1/10

◆現在、日本における野生獣や外来生物の異常発生により、生態系及び農林漁業において甚大な被害が出ている。
 しかしながら、行政は狩猟規制や鳥獣保護に力点を置き、狩猟環境の整備や被害の実情に対する対応策においては無関心であるのが実情である。
 狩猟取得者の制限・狩猟区の制限・捕獲数の制限・狩猟期間の制限・入林制限等あまりにも多い規制と無策では、日本の農林漁業を守ることは無論、従事者対応ができなければ、野生獣や外来種の数も被害額も増え続けていくことでしょう。